

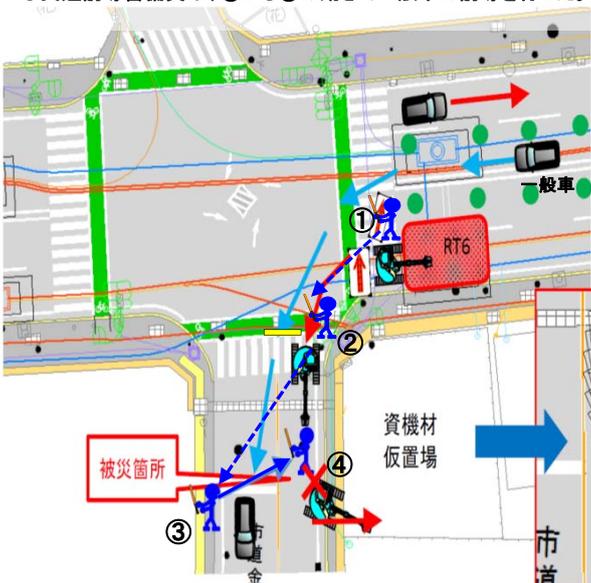
事故種類	労働災害	発生日時	平成28年4月16日 2時50分	事故当事者	1次下請
事故区分	建設機械	年齢性別	34歳 男性	職種	交通誘導警備員
被災程度(全治)	左リスフラン関節脱臼骨折[ひだりりすふらんかんせつたつきゅうこっせつ] (手術後推定される入院期間10週間)				
事故概要	被災者は、電線共同溝の特殊部埋設設置作業において地震による工事終了作業中、交通規制解除に向けて現地後片付けとして、重機仮置場にバックホウが移動している中、一般車を移動しつつ誘導した後、バックホウの後方に戻った時にバックホウ後部に接近し過ぎたため、方向転換したバックホウに左足を踏まれた。病院に搬送し診察を受けた結果、左リスフラン関節脱臼骨折[ひだりりすふらんかんせつたつきゅうこっせつ]、手術後推定される入院期間「10週間」と判明したものである。第三者被害はなし。				
事故原因等	1)交通誘導警備員の重機への不要接近。(交通誘導警備員の不注意) 2)作業終了後の仮置場までの重機移動に関する手順書が無い。(作業手順の不徹底)				
改善策等	1)に対する対策 ●重機後方・左右側方に「死角に入るな!」の接近注意シールを大きくしたものを5枚貼る。 (建設機械と人の接触事故防止) 2)に対する対策 ●交通誘導警備員の安全教育を再徹底するとともに、移動重機の前後に交通誘導警備員2名、重機の誘導者1名、作業の安全監視員(日誌により7項目をチェック)1名の計4名を配置する。 (重機移動手順書作成)				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・交通誘導員への安全教育の徹底(重機の死角への進入禁止) ・重機移動時の誘導者の配置				

事故状況図

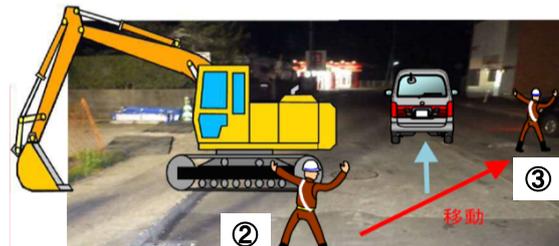
平面図

【作業状況】

- 作業を終えたバックホウを、資機材(重機)仮置場へ移動していた。
- 交通誘導警備員は、①から④の動きで一般車の誘導を行った。



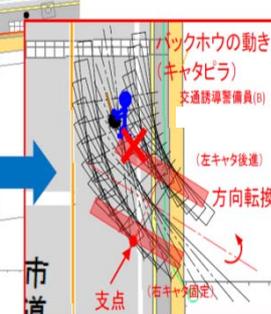
被災状況



②で重機移動中、一般車が来たので重機を避けるように
③に移動し対向車無しを確認し誘導を行った。



③で一般車の誘導を行い通過を確認した後、バックホウの後方
④に戻った時にバックホウ後部に近づき過ぎたため、方向転換したバックホウに左足を踏まれた。



改善策

■改善対策Ⅰ

- バックホウの後部と左右側部に「死角に入るな!」の接近注意シールを大きくしたものを5枚貼る。



■改善対策
現在寸法 横20cm×縦10cm
↓
改善寸法 横40cm×縦30cm



■改善対策Ⅱ

- 移動重機の前後に人員を4人配置する。各々の役割分担は次のとおり。
- ①②交通誘導警備員2名:一般車の誘導、③重機誘導者1名:重機の誘導、④安全監視員1名:作業の監視と安全管理日誌(7項目チェック)点検
- 上記の作業班による、作業開始前と作業完了後の重機移動手順書を、各作業ケース毎に作成し、朝礼・KY時に全員に指示する。

